

2006.10.15

34号

## 枝光八幡宮秋季大祭

### 復活して6年目—地域に根づく「神輿巡幸」

主催：枝光神輿の会

枝光八幡宮では、さる平成18年10月15日、秋季大祭に先立ち一時途絶えていた神輿巡幸を再度復活させ、今回で六回目となる「神輿巡幸」を執り行った。



境内より巡幸開始

同巡幸は、北九州市八幡東区諏訪にある枝光八幡宮の近隣地区の有志と地元



子どもたちによる「奉納相撲」

中学校（北九州市立枝光台中学校）の生徒及び、九州大学の学生の応援により執り行ったもので、関係者多数が同地域内を法被、白短パン、白足袋で神輿を担ぎ「秋季大祭」を前に、地域が一体となった。

巡幸を当初より企画した枝光神輿の会の宮地久男代表は、「八百有余年の歴史のある枝光八幡宮の秋の大祭が毎年10月20日・21日に行われる。この長い歴史のなかで、

担ぎ手がないことから、夏の祇園祭では神輿がトラックに乗って地域を回り始めて四十年余りとなっている。身近な日本文化の一つがこのままで良いのかとの疑問から、神輿を担ごうとの思いを深めていた。『神輿は担ぐもの』この自然な考え方で今回、“時間”と“からだ”と“心”を使って地域の『神輿』を担ごうと、平成10年から地域の仲間たちに話を聞いてもらい実現に向けて協議を進め、三年かけて実行の目処をたてることができた。北九州には、小倉祇園太鼓・戸畑祇園大山笠など有名な祭りがあるが、小さくても地

域の活力を向上させ、また若者にとって魅力のある祭りを継承して行く為に、“枝光神輿の会”を結成し、平成13年、枝光八幡宮の秋季大祭にあわせて、57年ぶりに神輿のご巡幸を再開することができた。今年で6回目となるが、地元中学生の皆さんも三年前から参加して頂いている。彼等と一緒に地域のまつりを行い彼等が大人になるなかで、また、次の子どもたちへ思いを継承して行くことができればと思う」と語った。



「地域の教育が大切である」と語る野原校長

地元北九州市立枝光台中学校の野原三郎校長は、「地域の住民の一人として子どもたちが、地域のお祭りに参加することは善いことではないかと思えます。学校とともに、地域のなかで子どもたちは見守られながら育っていくものだと思います。また、その子どもたちが次の世代の子どもたちを育てていくことが大切です。それが地域の教育であると思う。そして、今後ともできるだけ続けて行くことができればと思います」と語った。

同中学校野球部顧問の坂口雄一先生は、「市立枝光台中学校野球部というよりも枝光台中学校の生徒として、地域に少しでも貢献できればと思い神輿担ぎに参加しました。今後、そのようなお誘いがあったら前向きに考えて行きたいと思えます」と語った。



「地域に少しでも貢献できれば」と語る坂口先生

なお、当日は北九州市立枝光小学校及び、北九州市立ひびきが丘小学校の2年生から6年生の男児・女児60余名による「子供奉納相撲」も行われ、応援する声が境内に響き渡った。



北九州市立ひびきが丘小学校も「奉納相撲」に参加



「枝光神輿の会」代表の宮地氏

